

# 紀 要

第 27 号

2014. 3

公益財団法人滋賀県文化財保護協会

## 近江出土の渡来銭貨

小島孝修

### 1. はじめに

遺跡の発掘調査では、もちろん遺跡・遺構の埋没時期にもよるが、銭貨が出土することがある。筆者の経験を振り返ってみても、複数の遺跡の調査で銭貨が出土している。それらは、大半は1～数枚が遺構埋土から出土する状況であり、そこに特別な意図を見出しがたいものであった。しかし、様々な発掘調査における事例を調べてみると、大量に出土していたり、あるいは意図的に埋めたりしたと考えられる場合も存在するようである。

これらの発掘調査や検討を通じて持った、筆者の銭貨に関するおもな興味は、日本独自の銭貨を持たなかった中世にある。当時流通していたのは、おもに中国などから日本に持ち込まれた銭貨＝渡来銭貨であり、それらに関する研究は、近年著しく進展している(櫻木2009など)。

発掘調査における整理作業では、出土した銭貨の銭種が何か、あるいは出土状況に何らかの意図的な埋納行為を見出せるのか、などを調べるために、関連文献に当たることとなる。中世の銭種を調べる文献を具体的に挙げるとすれば、現状では『中世出土銭の分類図版』(永井2002)が最も有効であろうし、そのほかにも、本稿の文末に参考文献としていくつか挙げているが、雑誌『出土銭貨』や、銭貨に関する論文や文献が多数存在する。

これらの論文や文献を読んで気付いたのは、中世出土銭貨研究において、滋賀県内から出土した資料はその対象としてほとんど取り上げられていない、ということである。これは、出土枚数が少ないこと、とくにおもに研究の対象とされてきた一括出土銭の検出数が非常に少ないことに大きく起因している。さらに、滋賀県内で出土した銭貨の集成は、古代の皇朝十二銭については本誌第18号に掲載された辻川論文(2005)があるものの、中世以降に関してはほとんど見当たらないこともわかった。

一方、滋賀県内でも遺跡の発掘調査などで多少の中世の銭貨(渡来銭貨)が出土することがあり、それぞれの報告書においてそれらに関する記述がなされている。そこでは、その銭種の初鋳年や、従来の研究成果に基づく全国的な出土頻度といったことが書かれることが多い。しかし、滋賀県での集成がなされていないこともあるのであろう、どのような位置づけとすることができるのかまでは、書かれていないことがほとんどである。

以上のことから、本稿は、滋賀県域＝近江における渡来銭貨の集成を行ってその実態を把握し、続いて出土傾向などの検討を行い、今後の諸研究に資するものとした。

### 2. 集成の方法

#### (1)集成の方法

今回の近江における渡来銭貨の集成にあたっては、出土遺跡地名表などの先行研究が無いため、滋賀県内で実施された発掘調査報告書を閲覧して確認することとした。具体的には、現在までに滋賀県内では約2,000冊の発掘調査報告書が刊行されているが、それらを文字通り1頁1頁繰って渡来銭貨の拓本あるいは写真を検索し、本文記述や観察表などから銭種を確認するなどして分布図(図1)と地名表(表1)を作成した。できる限りすべての調査報告書を確認するように努めたが、遺漏もあろうと思われ、それは今後の新出資料とともに追加していくことで対処したい。また、各資料を実見して確認することが理想ではあるものの、枚数が多いこととそれだけの時間的余裕がなかったことから、どの資料についても実見はしていない。

#### (2)集成の条件

各資料は、様々な条件下で実施された発掘調査で出土していることもあり、その報告も様々ではない。今回の集成に際しての銭種の判断は、以下の各条件のもとに行った。

[1]集成の対象資料は中国各王朝だけでなく、朝鮮や琉球などからの渡来銭貨も含めた。また、時期は中世に限らず、古代以前・近世以降も含めた。それは、枚数が少ないからこそできたことではあるが、現時点で集成しておけば、今後それらを対象とした集成作業を行う際に検索が容易であると考えたからである。

[2]銭種は、報告書の記述をそのまま用いるのではなく、可能なものは拓本と記述を照らし合わせた。まれに、存在しない銭種を報告する例や、記述と拓本が一致しない例などが見いだされたが、その場合は筆者の判断を優先した。よって、銭種の判断の責任は、すべて筆者にある。

[3]ただし、出土したすべての銭貨の拓本を掲載していない報告書も存在する。このような例は、例えば3,804枚が出土していて、滋賀県内唯一の一括出土銭と言える野洲市虫生館遺跡(83、遺跡名の後の数字は表1左端の番号に対応)など、枚数が多いために紙幅の関係で掲載できなかったと思われる事例が多かった。その場合は、拓本と照らし合わせるができないため、基本的に報告書の記述をそのまま採用した。このほか、野洲市富波遺跡(88)については、数条の緡銭(さしぜに)がかたまっただけで出土しているが、出土した状態のまま保存されているため、正確な出土枚数や銭種とそれぞれの枚数は不明である。

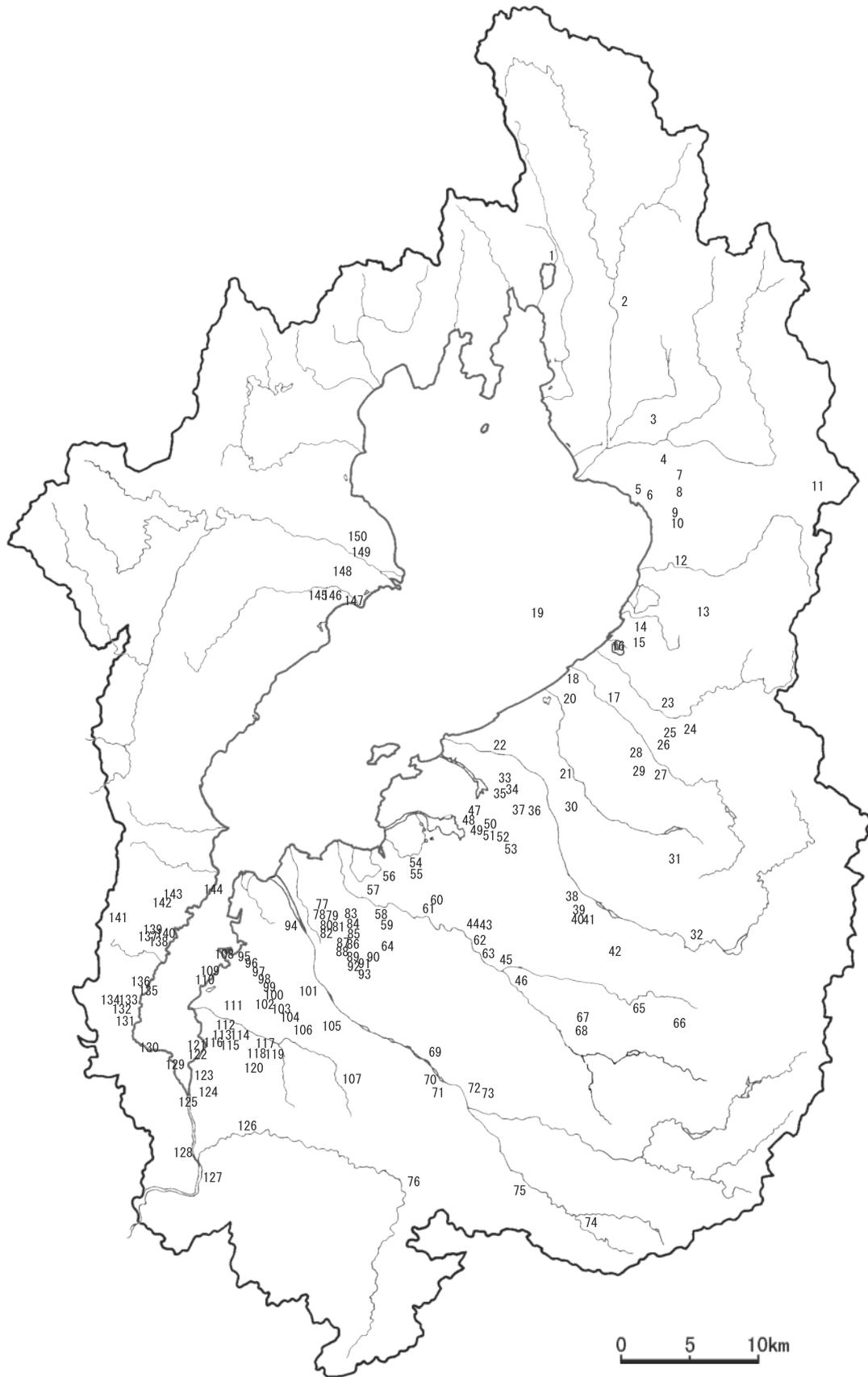


図1 近江渡来銭貨出土遺跡分布図

近江出土の渡来銭貨（小島孝修）

番号	遺跡名	所在地	合計	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
				前漢	唐		前蜀	後周	南唐	前黎	北宋																		
				前118	開元通寶	乾元重寶	光天元寶	周通元寶	唐國通寶	天福鎮寶	宋通元寶	太平通寶	淳化元寶	至道元寶	咸平元寶	景德元寶	祥符元寶	祥符通寶	天禧通寶	天聖元寶	明道元寶	景祐元寶	皇祐通寶	至和元寶	至和通寶	嘉祐元寶	嘉祐通寶	治平元寶	治平通寶
1	笠上遺跡	長浜市 余呉町中ノ郷	2																										
2	巳高山鶏足寺	長浜市 木之本町古橋	4																										
3	浄土寺遺跡	長浜市 浅井町平塚	1																										
4	神照寺坊遺跡	長浜市 新庄寺町	1																										
5	列見町遺跡	長浜市 列見町	1																										
6	大通寺遺跡	長浜市 元浜町	3																1	1							1		
7	越前塚遺跡	長浜市 加納町	1																										
8	大東遺跡	長浜市 大東町	2																										
9	鴨田遺跡	長浜市 大戌亥町	25	1	2											1			1			1	3				1	1	
10	下坂氏館跡	長浜市 下坂中町	1																										
11	上平寺遺跡	米原市 伊吹町上平寺	56		5			1																					1
12	箕浦城遺跡	米原市 箕浦	457		32	2								2	1	1	1	1		1			1	7			2	1	
13	鎌刃城跡	米原市 番場	4								1	3	2	14	9	6	16			3	32	4	11	50	7	1	6	5	11
14	松原内湖遺跡	彦根市 松原町	2																										
15	佐和山城跡	彦根市 佐和山町	7		2																								
16	特別史跡彦根城跡	彦根市 金亀町	76		5									3			5			4	3		3	7	2		1	4	4
17	竹ヶ鼻寺遺跡	彦根市 竹ヶ鼻町	1																	1									
18	八坂東遺跡	彦根市 八坂町	1		1																								
19	多景島湖底遺跡	彦根市 八坂町	25		2									3			2												
20	妙楽寺遺跡	彦根市 日夏町	39		1																								
21	肥田城遺跡	彦根市 肥田町	5																										
22	国領遺跡	彦根市 田附町	3																										
23	木曾遺跡	多賀町 木曾ほか	3																										
24	四手遺跡	多賀町 四手	1																		1								
25	敏満寺西遺跡	多賀町 多賀	1																										
26	敏満寺遺跡	多賀町 敏満寺	7									1																	
27	檜崎古墳群	多賀町 檜崎	33		3								1																
28	尼子西遺跡	甲良町 尼子	1																										
29	法養寺遺跡	甲良町 横関ほか	1										1																
30	市村城遺跡	愛荘町 市	1											1															
31	百済寺遺跡	東近江市 百済寺町	13																										
32	高野館遺跡	東近江市 永源寺高野町	1																			2							4
33	地藏遺跡	東近江市 蘇光寺町	6																										
34	猪子山古墳群	東近江市 猪子	9			1								1			1												
35	大徳寺北遺跡	東近江市 能登川町	5																			1							
36	宮菴清水ヶ井遺跡	東近江市 宮菴町	1																										
37	石馬寺遺跡	東近江市 石馬寺	1																			1							
38	川合寺遺跡	東近江市 川合寺町	1		1																								
39	野村北遺跡	東近江市 野村町	1																										
40	陣屋遺跡	東近江市 野村町	1		1																								
41	金貝遺跡	東近江市 野村町	2																										
42	福心寺遺跡	東近江市 土器町	2																										
43	浄土屋敷遺跡	東近江市 上平木町	11																										
44	下羽田遺跡	東近江市 上平木町	1																										
45	蛭子田遺跡	東近江市 木村町	3		1																								
46	堂田遺跡	東近江市 鈴町	5										1																
47	竜ヶ崎 A 遺跡	近江八幡市 安土町下豊浦	1																										
48	弁天島遺跡	近江八幡市 安土町下豊浦	1																										
49	十七遺跡	近江八幡市 安土町下豊浦	3																										
50	特別史跡安土城跡	近江八幡市 安土町下豊浦	15											1			1			2	1		1	3					
51	安土城下町遺跡	近江八幡市 安土町下豊浦	11		1											2							1	1					
52	観音寺城跡	近江八幡市 安土町石寺	9					1						1										1					
53	観音寺城下町遺跡	近江八幡市 安土町石寺	4		1																								
54	八幡山城遺跡	近江八幡市 宮内町ほか	4																										
55	森ノ前遺跡	近江八幡市 堀上町ほか	14		3												1												1
56	加茂遺跡	近江八幡市 加茂町	3																										
57	里井 B 遺跡	近江八幡市 十王町	211		4							2	1	3	5	7	4		5	11		5	23	2		1	3	3	
58	辻野遺跡	近江八幡市 安養寺町	1		1																								
59	安養寺遺跡	近江八幡市 安養寺町	1																										
60	大手前遺跡	近江八幡市 野田町	1																										
61	川ノ口遺跡	近江八幡市 上田町	5		1																								
62	梅ノ木遺跡	近江八幡市 新巻町	1																										
63	天神山古墳群	竜王町 川守	1																										
64	ブタイ遺跡	竜王町 山面	3																										
65	銭掘山遺跡	日野町 中之郷	575		25			1		1			1	4	3	5	16	1	9	32		17	88	8	2	3	13	15	1
66	蓮台遺跡	日野町 西明寺	2																										
67	宮ノ前遺跡	日野町 石原	84		1								2	2	2		1		2	3									
68	小御門城跡	日野町 小御門	1										1																
69	岩瀬谷古墳群	湖南市 正福寺	4										1																
70	井戸遺跡	湖南市 中央	1																										
71	夏見城遺跡	湖南市 夏見	1																										
72	下川原遺跡	甲賀市 水口町泉	1																										
73	植城遺跡	甲賀市 水口町植	1																										
74	大原市場地区	甲賀市 甲賀町大原市場	1																										
75	竜法師城遺跡	甲賀市 甲南町竜法師	1																										
76	北黄瀬遺跡	甲賀市 信楽町黄瀬	6											1		1													
77	光相寺遺跡	野洲市 吉地	10																										

表 1 近江渡来銭貨出土遺跡地名表 (1-1)



近江出土の渡来銭貨（小島孝修）

番号	遺跡名	所在地	合計	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	
				前漢	唐		前蜀	後周	南唐	前黎	北宋																			
				五銖	開元通寶	乾元重寶	光天元寶	周通元寶	唐國通寶	天福鎮寶	宋通元寶	太平通寶	淳化元寶	至道元寶	咸平元寶	景德元寶	祥符元寶	祥符通寶	天禧通寶	天聖元寶	明道元寶	景祐元寶	皇祐通寶	至和元寶	至和通寶	嘉祐元寶	嘉祐通寶	治平元寶	治平通寶	
78	吉地薬師堂遺跡	野洲市 吉地	5		1							1								1			1							
79	吉地大寺遺跡	野洲市 西河原	5																											
80	光明寺遺跡	野洲市 西河原	3		1																	1								
81	西河原森ノ内遺跡	野洲市 西河原	1																		1									
82	小比江遺跡	野洲市 小比江	1																											
83	虫生館遺跡	野洲市 虫生	3,804		269	6		1	2		13	34	36	80	66	91	29	59	99	193	13	45	481	45	30	51		77	7	
84	中北遺跡	野洲市 中北	1																											
85	上永原遺跡	野洲市 上屋	3																											
86	常楽寺遺跡	野洲市 富波甲	3									1																	1	
87	三堂遺跡	野洲市 富波甲	9		1																									
88	富波遺跡	野洲市 富波乙	376										1								2			3						
89	久野部遺跡	野洲市 久野部	6																											
90	夕日ヶ丘北遺跡	野洲市 大篠原	3		1											1														
91	街道遺跡	野洲市 大篠原	1																											
92	小堤遺跡	野洲市 小堤	2																											
93	大篠原南遺跡	野洲市 小堤	9												1															
94	笠原南遺跡	守山市 笠原町ほか	24		2					1										1			5					1	1	
95	山賀遺跡	守山市 山賀町	1																											
96	小津浜遺跡	守山市 山賀町ほか	2																								1			
97	欲賀遺跡	守山市 欲賀町	1																											
98	欲賀南遺跡	守山市 欲賀町	14																											
99	横江遺跡	守山市 横江町	4		1												1	1												
100	古高遺跡	守山市 古高町	7										1									2								
101	吉身南遺跡	守山市 吉身町	3																									1		
102	十里遺跡	栗東市 十里	10											1																
103	総遺跡	栗東市 北中小路	14		1																	2		2			1			
104	野尻遺跡	栗東市 総	1																											
105	多福寺遺跡	栗東市 林	1																											
106	上鈎遺跡	栗東市 川辺	9													1														
107	中村遺跡	栗東市 御園	1																											
108	烏丸崎遺跡	草津市 下物町	5		1																									1
109	志那湖底遺跡	草津市 志那町ほか	6													1							1	1						
110	七条浦遺跡	草津市 下笠町	3																											
111	上笠遺跡	草津市 上笠町ほか	1		1																									
112	中兵庫遺跡	草津市 北山田町ほか	1																											
113	山田城跡	草津市 南山田町	34		1									1																
114	墓ノ町遺跡	草津市 南山田町	1																											
115	御倉遺跡	草津市 御倉町	5																											
116	北萱遺跡	草津市 御倉町	10		1																									
117	草津宿場町遺跡	草津市 草津	5		1																									
118	中畑遺跡	草津市 矢倉ほか	1																											
119	柳遺跡	草津市 青地町	5		1																									
120	野路岡田遺跡	草津市 野路	2																											
121	矢橋湖底遺跡	草津市 矢橋町	36		1			1										3				2		2	5	2		1	1	
122	矢橋港跡	草津市 矢橋町	2																											
123	東光寺遺跡	大津市 大萱	6		1																									
124	特別史跡近江国府跡	大津市 大江	5															5												
125	唐橋遺跡	大津市 瀬田	615	2	40	3	1		2		1	5	9	9	9	17	18	3	14	19	3	8	84	5		3	10	16		
126	上田上牧遺跡	大津市 上田上牧町	5										1																	
127	関津遺跡	大津市 関津	56		5									1			1	3				2		2	7			1	2	1
128	石山寺境内遺跡	大津市 石山寺	86		3																									
129	膳所城遺跡	大津市 本丸町	4																											
130	大津城跡	大津市 浜大津	27		2																									
131	錦織遺跡	大津市 皇子が丘	3																											
132	上高砂遺跡	大津市 高砂町	2																											
133	滋賀里遺跡	大津市 滋賀里	38		6																									
134	大通寺古墳群	大津市 滋賀里	1																											
135	唐崎遺跡	大津市 唐崎	1																											
136	穴太遺跡	大津市 穴太ほか	2																											
137	坂本遺跡	大津市 坂本	855		51	2			1				11	6	11	14	26	13	10	14	40	5	6	108	3	6	11	15	13	2
138	坂本八条遺跡	大津市 坂本	2																											
139	坂本里坊遺跡	大津市 坂本	46		4	1																							1	2
140	石占井遺跡	大津市 坂本	11		4																									
141	延暦寺境内横川遺跡	大津市 坂本本町	29																											
142	上仰木遺跡	大津市 仰木	7																											
143	杉谷遺跡	大津市 仰木町ほか	44		1																									
144	浮御堂遺跡	大津市 本堅田	166		8						1	3		4	2	3	6	2	5	6	1	2	20	1	1			5		
145	天神畑遺跡	高島市 高島町鴨ほか	1																											
146	鴨遺跡	高島市 高島町鴨	1																											
147	大溝郭内遺跡	高島市 高島町勝野	1																											
148	西方木遺跡	高島市 安曇川町西方木	4																											
149	新庄城遺跡	高島市 新旭町新庄	1																											
150	清水山城遺跡	高島市 新旭町熊野本	23			4																								
合計(点)				8,288	3	503	18	1	3	7	1	17	60	66	148	121	171	139	79	175	376	33	110	968	82	41	84	73	163	13
滋賀県での割合(%)				-	-	6.1	0.2	-	-	0.1	-	0.2	0.7	0.8	1.8	1.5	2.1													



[4]上記[3]とは逆に、拓本は掲載するものの銭種の記述のない報告も存在する。例えば、米原市箕浦城遺跡(12)では457枚が出土している。後述するように、そのほとんどが墓から出土していて、六道銭の好例とすることができる。しかし、その銭種はいずれも記載されていない。だが、すべての銭貨の表面・裏面の拓本が掲載されていることから、(兵庫埋蔵銭調査会1996)や(永井2002)を参考に、筆者が銭種を判断した。このことは逆に、筆者自身が拓本から銭種を判断する訓練に役立ち、そのほかの報告書において記述と拓本が一致しない例を見出せるようになった。

[5]これらの銭貨のなかに、渡来銭貨を写して日本国内で作られた模铸銭が含まれるであろうことは、これまでの全国各地での調査・研究事例(嶋谷2003)からも十分に想定される。しかし、いずれの資料も実見しておらず、かつ拓本だけではその判断が難しいことから、今回の集成においてはその区別はしていない。

[6]開元通寶(2、銭種の後の数字は表1上端の番号に対応)については、大きく3種に分けることができるとされている(永井2002)。すなわち、①唐が621年以降に発行したものの、②唐が845年以降に発行した「紀地銭」、③南唐が960年以降に発行したものの、である。このうち、②については、背面に文字が鑄込まれるため、背面の拓本が掲載できれば、その認識が可能である。今回の集成では、米原市上平寺遺跡(11)で1枚、箕浦城遺跡で2枚、合計3枚を確認した。ただし、これは、背面の拓本が掲載されていなければ確認できず、実際、掲載されていないものも多い。一方、③については、隸書体であること、あるいは周縁部の幅が①よりも幅広であることが認識条件となる。隸書体は確認されなかったが、周縁部幅が広い例は確認することができ、実際にそれにしたがって、南唐銭と判断した報告も存在する。ただし、周縁幅を具体的な数値で判断することができなかった。以上のことから、開元通寶は区別せずに一括して分類し、表などでは便宜的にすべて621年鑄造開始分としている。

以上の各条件に基づいて、集成を行った。その結果とそれに基づいて行ったいくつかの検討について、次章で述べることとした。

### 3. 近江における渡来銭貨の集成結果

#### (1)全体の傾向

集成の結果、表1に示したように、150遺跡で合計8,288枚の渡来銭貨を確認した。筆者が検索しきれていない分を含めても、おそらく现阶段で1万枚は超えないものと思われる。全国で出土している一括出土銭のなかには、1資料だけで1万枚を超えるものも少なくない(鈴木1999など)ことから、やはり滋賀県の渡来銭貨出土枚数は、比較的少ない部類に入ることが、あらためて確認できた。

このうちの7,663枚(92.5%)について、銭種を確認した。ただし、確認できなかった625枚の半数以上は富波遺跡のものである。いずれも小平銭(しょうへいせん)と呼ばれる1文銭で、2文以上で通用する大銭は出土していない。

#### (2)銭種について

##### ①王朝別の内訳

61種を確認した。その王朝別の内訳は表2に示したとおりで、その割合は北宋が6,525枚(78.7%)と圧倒的に多く、続いて開元通寶を含む唐が521枚(6.3%)、永樂通寶(56)を含む明が445枚(5.4%)となり、この3王朝で9割以上を占める。また、61種のうち、中世の渡来銭貨以外のものは、前漢の五銖(1)と清の乾隆通寶(60)・嘉慶通寶(61)がある。

##### ②出土枚数が多い銭種

出土枚数が多い銭種上位10種は、表3に示したとおりである。唐銭の開元通寶が5位、明銭の永樂通寶が8位のほかは、いずれも北宋銭である。

これら上位10種で5,566枚と、出土枚数の67.1%を占める。『東アジア中世海道』(国立歴史民俗博物館2007)における「よく使われた銭ランキング40」とは、その順位が異なる銭種があるものの、10種の銭種は一致していることから、おおむね全国的な傾向と合致している、といえる。

なお、表1には、上位30種も表示した。31～40位は、母数が少ないことから生じる誤差の可能性が高いと判断し、表示しなかった。こちらにも、『東アジア中世海道』と順位が近い銭種が多い一方で、5ポイント以上差が開くものも、至道元寶(11、北宋：県内14位⇒全国19位)、嘉祐通寶(24、北宋：県内23位⇒全国15位)、洪武通寶(55、明：県内19位⇒全国11位)の3種が認められる。それが起因するのは、母数が少ないことから生じる誤差なのか、近江の持つ特徴なのかは、現時点では判断し得ない。

##### ③出土枚数が少ない銭種

逆に、出土枚数が少ないという観点からすれば、表4に示したように、1枚のみを7種、2枚のみを3種、3枚のみを4種、それぞれ確認した。ここには、前述した五銖・乾隆通寶・嘉慶通寶も含めている。(永井2002)では、各銭貨の日本国内での出現頻度をアルファベットで表現しているが、これら3枚以下の15種については、A(200枚以内のもの)とB(出土銭の組成比率が0.1%未満)に該当しており、AA(50枚以内のもの)以上は確認していない(図2)。

ただし、これら3枚以下の希少14種のうち、崇寧元寶(33：北宋)・大定通寶(38：金)・世高通寶(59：琉球)の3種については、報告書等における記述のみであり、拓本や写真は確認していない。したがって、現時点ではその存在を確定するまでには至っていない。このことから、本来ならばここで挙げるべきではないかもしれないが、今後の実見などによって、その存在を確定することとしたい。

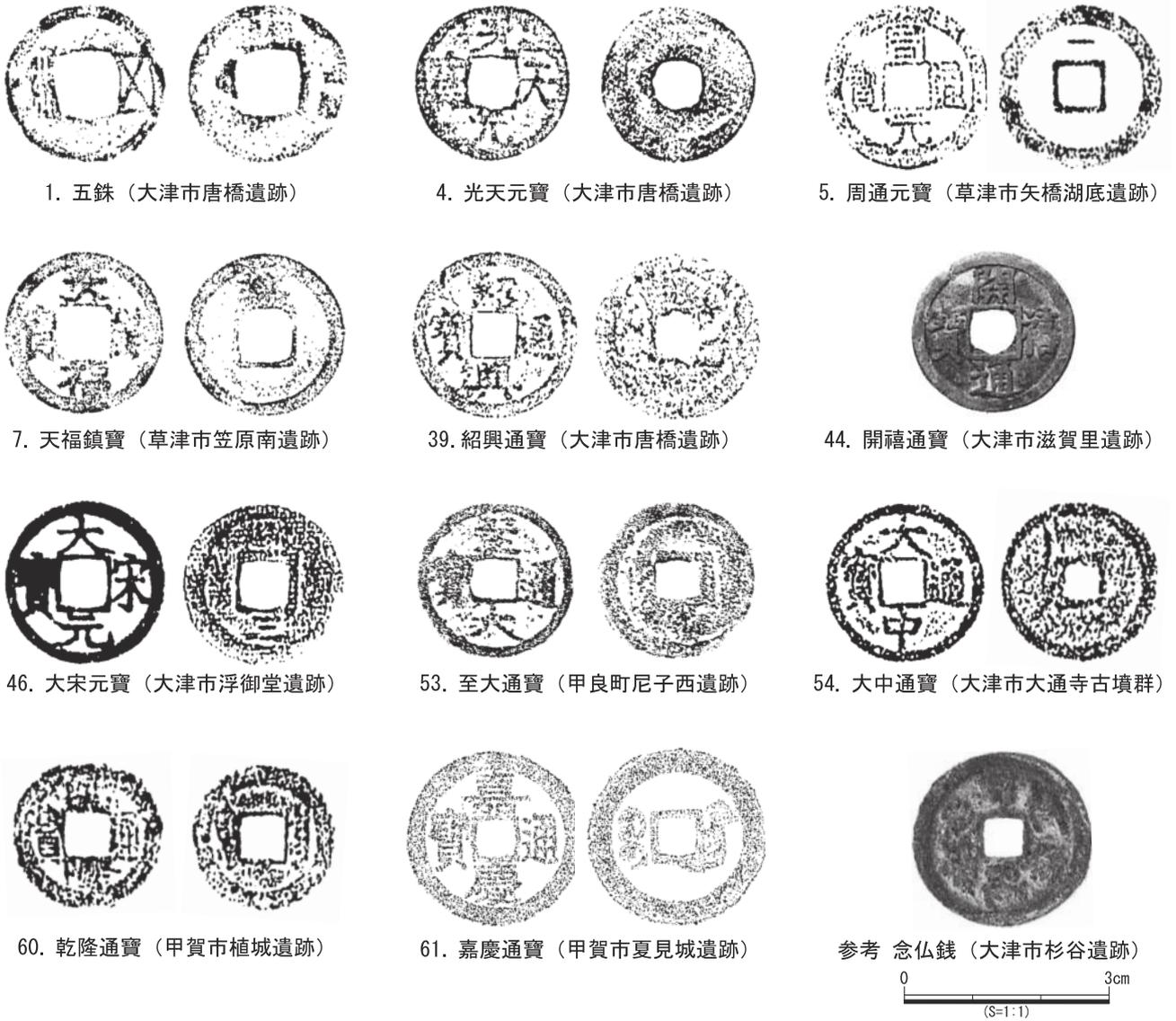


図2 希少銭貨拓本・写真一覧（写真の縮尺は統一していない）

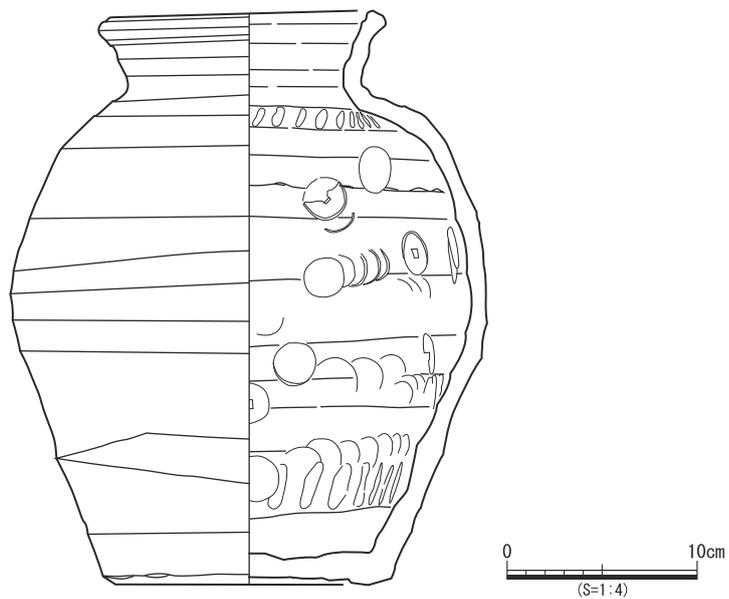


図3 野洲市虫生館遺跡(83)一括出土銭入り信楽焼壺（水野ほか1981掲載図を再トレース）

王朝名	銭種数	枚数	割合(%)
前漢	1	3	—
唐	2	521	6.3
前蜀	1	1	—
後周	1	3	—
南唐	1	7	0.1
前黎	1	1	—
北宋	29	6,525	78.7
金	2	12	0.1
南宋	14	129	1.6
元	1	2	—
明	4	445	5.4
朝鮮	1	11	0.1
琉球	1	1	—
清	2	2	—
(不明)	—	625	7.5
合計	61	8,288	100

表2 王朝別出土枚数一覧表

滋賀県での順位	銭種	王朝名	初鑄年(西暦)	枚数	滋賀県での割合(%)	『東アジア中世海道』の順位
1	元豊通寶(28)	北宋	1078	1,031	12.4	2
2	皇宋通寶(20)	北宋	1038	968	11.7	1
3	熙寧元寶(27)	北宋	1068	730	8.8	3
4	元祐通寶(29)	北宋	1086	724	8.7	4
5	開元通寶(2)	唐	621	503	6.1	5
6	天聖元寶(17)	北宋	1023	376	4.5	7
7	紹聖元寶(30)	北宋	1094	357	4.3	8
8	永樂通寶(56)	明	1408	338	4.1	6
9	聖宋元寶(32)	北宋	1101	294	3.5	10
10	政和通寶(35)	北宋	1111	245	3.0	9
合計				5,566	67.1	

表3 出土枚数上位10位銭種一覧表

銭種	王朝名	初鑄年(西暦)	枚数	『中世出土銭の分類図版』の出現頻度
五銖(1)	前漢	前118	3	B
光天元寶(4)	前蜀	918	1	A
周通元寶(5)	後周	955	3	B
天福鎮寶(7)	前黎	984	1	A
崇寧通寶(33)	北宋	1102	3※	A
紹興通寶(39)	南宋	1131	1	A
大定通寶(38)	金	1178	2※	B
開禧通寶(44)	南宋	1205	3	B
大宋元寶(46)	南宋	1225	2	B
至大通寶(53)	元	1310	2	B
大中通寶(54)	明	1361	1	B
世高通寶(59)	琉球	1461	1※	A
乾隆通寶(60)	清	1736	1	—
嘉慶通寶(61)	清	1796	1	—

※は調査報告書に記述のみで、存在を確定できていないもの

表4 希少銭貨一覧表(3枚以下)

なお、蛇足ではあるが、今回の集成作業を行うなかで、出土枚数が少ない近世の国内銭貨2種も確認したので、ここで紹介しておきたい。

大津市杉谷遺跡(143)では、念仏銭1枚が出土している。念仏銭は、正確には銭貨ではなく、絵銭であり、表面に「南無阿弥陀仏」を鑄出し、六道銭として使用するために特別に鑄造されたものである。本例は、図2最下段右端に示した写真のみが調査報告書に掲載されている。不鮮明なため詳細は不明だが、6文字あることや、右斜め上のものが「南」であることが読み取れる。

大津市石山寺境内遺跡(128)では、仙基通寶2枚が出土している。仙基通寶は、仙台藩が天明の大飢饉で藩の財政が逼迫したことから、幕府の許可を受けて天明4年(1784)から鑄造されたもので、領内の流通に限られたが、実際にはこのように領外にも流通している。質が悪かったことから、結局藩の財政立て直しに至らなかったようである。外周が隅丸方形を呈するものであるが、本例は拓本・写真が示されていないことから、その存在を確認できていない。

滋賀県での順位	遺跡名	所在地	枚数	滋賀県での割合(%)	一括出土銭の年決定銭種と枚数
1	虫生館遺跡(83)	野州市虫生	3,804	45.9	寛永通寶(1)
2	坂本遺跡(137)	大津市坂本	855	10.3	寛永通寶(1)※
3	唐橋遺跡(125)	大津市瀬田	615	7.4	—
4	銭掘山遺跡(65)	日野町中之郷	575	6.9	寛永通寶(1)
5	箕浦城遺跡(12)	米原市箕浦	457	5.5	—
6	冨波遺跡(88)	野州市冨波乙	376	4.5	(不明)
7	里井B遺跡(57)	近江八幡市十王町	211	2.5	永樂通寶(25)※
8	浮御堂遺跡(144)	大津市本堅田	166	2.0	—
9	石山寺境内遺跡(128)	大津市石山寺	86	1.0	—
10	宮ノ前遺跡(67)	日野町石原	84	1.0	永樂通寶(1)
11	特別史跡彦根城跡(16)	彦根市金亀町	76	0.9	政和通寶(3)
合計			7,305	87.9	

※ 坂本遺跡の年代決定銭はB地区IJ-13黒青褐色粘質土一括出土の208枚について、里井B遺跡の年代決定銭は第2調査区P1出土の194についてである。

表5 大量出土遺跡一覧表(上位11位)

### (3)出土状況などについて

#### ①遺跡の分布と遺跡別出土枚数

出土遺跡の分布でいえば、発掘調査件数に比例して大津・湖南地域に多いものの、湖北地方から大津・湖南地域にかけて広く分布している状況が見てとれる。湖西北部地域(高島市域)では、安曇川河口部の平野部に集中していて、限定的な銭貨流通範囲を示すのかもしれない。

表4には、出土枚数の多い上位11遺跡を示した。最も多いのは虫生館遺跡の3,804枚であり、県内出土枚数の45.9%と半分近くを占める。以下、大津市坂本遺跡(137)の855枚、大津市唐橋遺跡(125)の615枚と続き、第8位の大津市浮御堂遺跡(144)までが100枚以上である。これら11遺跡で7,305枚と全体の87.9%を占める。

逆に出土枚数の少ない例でいえば、1枚のみの遺跡は52遺跡(34.7%)あり、5枚以下だと99遺跡(66.2%)と出土遺跡数のほぼ2/3を占める。さらに、10枚以下だと116遺跡(77.3%)と出土遺跡数のほぼ3/4を占めることとなる。少ない枚数の遺跡が多い状況を確認できた。

## ②出土状況

多くの事例は、数枚が遺構埋土あるいは遺構検出面で出土するものであり、そこに明確な意図を見出しがたい。ここでは、特徴的な3つのパターンを抽出した。

【一括出土銭】「一括出土銭」という用語は、1,000枚以上が一括して出土したのに対して使われており(鈴木1999)、その基準からすると、虫生館遺跡の3,804枚のみが滋賀県内では該当する。本稿では、表5に示した上位11遺跡のうちの、出土枚数は少ないが、出土状況から一括と認識しうる7遺跡について、以下に話を進めることとした。なお、これらが「埋納銭」か「備蓄銭」か、といった性格的な部分についての議論は、ここでは取り扱わない。

年代を決定する根拠となる最新銭は、銭種が不明な野洲市富波遺跡の事例を除き、特別史跡彦根城跡(16)で北宋の政和通寶、里井B遺跡(57)・宮ノ前遺跡(67)で明の永樂通寶、そのほかの3遺跡で、近世の寛永通寶である。これらを鈴木公雄の8期区分(鈴木1999)に当てはめると、北宋銭の政和通寶は初鑄年が1111年であることから、第1期(最新銭が南宋の咸淳元寶(1265年)までのもので13世紀)とでき、明銭の永樂通寶は初鑄年が1408年であることから、第4期(最新銭が永樂通寶で15世紀前期)とできる。

寛永通寶が出土している3遺跡のうち、坂本遺跡については、発掘調査において遺物包含層から緡銭の状態で一括出土していることから、明確に近世の事例とすることができる。しかし、「資料保管の過程で出土品以外の銭貨が混入することもあり、寛永通寶など他の銭貨と大きく時期が異なるものが数枚混じっているものについては、後世の混入である可能性が高いと考えられる」(櫻木2009)という指摘からすれば、虫生館遺跡例と日野町銭掘山遺跡例(65)にそれぞれ1枚ずつ含まれる寛永通寶については、混入とみられることも可能である。

とくに銭掘山遺跡例は、「江戸時代末期に俵3表分の古銭が出土している。ほとんどの古銭が宋銭で、現在鑑氏が411枚所有されている。なお、日野町教育委員会でも出土地不明の古銭165枚を保管しており、本遺跡出土の可能性が高いと思われる。」とされ、本来ならば「一括出土銭」として取り扱うべき資料であり、本稿でもこれらを合わせて取り扱っている。寛永通寶については、発見から報告までの100年以上の間に混入した可能性は否定できず、そう判断するならば、最新銭は初鑄1260年の景定元寶(51)であることから、第1期とすることができる。

一方、虫生館遺跡例は、昭和44年(1969)に個人宅の改築中に、地表下1.5m、旧屋敷跡下0.6mから出土したもので、正位に立ったままの信楽焼壺の中から発見された。蓋に相当するものは見出されず、内部に土砂が入り込んでいた。寛永通寶を除いた最新銭は、初鑄1423年の朝鮮通寶(58)であることから、第5期(朝鮮通寶までで15世紀中期)とする

こともできる。唐銭・北宋銭・南宋銭・明銭の占める割合は、それぞれ7.2%・87.4%・1.4%・4.0%である。

また、本節で扱っている7遺跡のうちで容器に入れられていたことが判明しているのは、この虫生館遺跡例の信楽焼壺の完形品のみである。丸い胴部から短い口縁が斜め上方に立ち上がる器形を呈し、口縁端部は玉縁状となる(図3)。器高30.3cm・口径15.2cm・胴部最大径25.0cm・底径15.2cmを図る。前述のように、本事例を15世紀中頃に埋められたものとして考えても、その年代と型式学的には齟齬がないといえる。そのほかの事例については、容器が確認できていないか、あるいは不明なものである。

このほか、少数の銭貨を埋納したと考えられる遺構も、各事例を精査すれば見出される可能性が高いが、今回はそこまでの検討を行っていないので、今後の課題としたい。

【墓】墓に副葬された事例の一部については、すでに集成もなされている(小原2009)。ここでは、文献精査の過程で確認した13例について、その状況の概要を見ていく。

長浜市浄土寺遺跡(3) 12基の土坑墓が検出され、そのうちのピット2から銭貨が出土している。調査報告書には「永樂通寶が主体となっており、多種類は錆のために判読しかねる。輸入宋銭と思われる。」との記述があるのみで、拓本・写真も掲載されていないため、実態が不明である。したがって集成表では永樂通寶1枚の出土としている。

長浜市鴨田遺跡(9) 方形の木棺の中から、人骨とともに21枚の渡来銭貨が出土している。最新銭は永樂通寶である。耕土層直下で検出したことと人骨の腐敗の程度から、報告書では明治初年頃のものとして判断している。

米原市上平寺遺跡(11) 土坑SK4から、45枚の渡来銭貨が出土している。数枚から33枚の連なった形で出土していることから、いずれも緡銭のようである。最新銭は永樂通寶である。墓とは判断されていないが、埋土に多量の炭と骨片1点を含むことから、埋葬に関連する施設となる可能性があるため、参考例として挙げておきたい。

米原市箕浦城遺跡(12) S687(82枚)・S689(17枚)・S690(14枚)・S691(14枚)・S692(51枚)・S693(171枚)～S694(66枚)の7基の墓を検出している。1基が板材を組み合わせた木棺墓(S687)であるほか、5基が早桶を用いており、残る1基は平面楕円形を呈する土坑(S692)である。

いずれからも渡来銭貨が出土していて、14枚(S690・S691)から171枚まで、その枚数には差がある。ただし、S690・S691については、両遺構の上層部分の埋土を水洗して34枚が出土しているので、本来の出土枚数はさらに多かったと思われる。また、土坑S692については、埋土から出土した「礫や銭貨は、前にあった墓をつぶした際の混入と考えられる」としており、土坑墓としての性格付け自体が不明瞭である。各遺構で南宋銭が出土していて、最新銭は咸淳元寶(52、南宋：初鑄1265年)である(勝見1994)。

**多賀町檜崎古墳群(27)** 墓37-3および37-4から、渡来銭貨が6枚ずつ出土している。前者の最新銭は前者が紹聖元寶(30、北宋：初鑄1094年)、後者の最新銭は後者が治平元寶(25、北宋：初鑄1064年)である。このほかに土坑35-1からも3枚の渡来銭貨と3枚の不明銭が出土していて、同様に墓である可能性がある。判明している3枚はいずれも元豊通寶(28、北宋：初鑄1078年)である。

**東近江市猪子山古墳群(34)** 52号墳の羨道部分を利用して中世墓が形成されている。渡来銭貨は9点が出土していて、最新銭は永樂通寶である。相伴して土師器皿や瓦・黒色土器碗・陶器壺が出土している。

**近江八幡市森ノ前遺跡(55)** 第1トレンチで検出された土坑床面から、猿投産緑釉陶器碗と渡来銭貨12枚が出土していて、遺物の出土状況から墓とされている。最新銭は元祐通寶(29、北宋：初鑄1086年)である。

**近江八幡市川ノ口遺跡(61)** 調査報告書では蛇塚遺跡とされている。5基の火葬墓が検出されていて、そのうちのSX-02の床面から、5枚の渡来銭貨が出土している。最新銭は永樂通寶である。このほか、SX-04埋土からは、貞観永寶27枚が出土している。

**野洲市三堂遺跡(87)** 23基の土坑墓が検出されていて、出土遺物から、12～13世紀のものと中世後期～近世のものがある。渡来銭貨はこのうちの2基から出土していて、SK07は3枚、SK13は6枚ある。最新銭は、SK07は皇宋通寶(20、北宋：初鑄1038年)、SK13は元祐通寶である。

**野洲市大篠原南遺跡(89)** 明治期の陶器窯の上方において、6基の「火葬墓」を検出している。渡来銭貨は9枚出土していて、6枚・3枚がそれぞれ付着している。銭種が判明するのは表面の1枚ずつのみで、6枚のものは洪武通寶、3枚のものは咸平元寶(12、北宋：初鑄998年)である。後者は古墓1(火葬墓1?)から出土しているが、6枚のもの出土遺構については記されていない。

**大津市特別史跡近江国府跡(124)** 東脇殿基壇東縁を破壊して、1基の土坑墓が形成されている。平面形はほぼ円形に近く、0.9m×0.8m・深さ0.3mの規模を持つ。埋土には骨片を含む多量の灰が堆積し、灰層上面から祥符元寶(14、北宋：初鑄1009年)5枚が出土している。ただし、文章のみで、拓本・写真は掲載されていない。

**大津市関津遺跡(127)** T40調査区において、2基の土坑墓が検出されている。このうちの土坑墓S20から、土師器皿2枚と折敷とともに、2枚の渡来銭貨が出土している。最新銭は熙寧元寶(27、北宋：初鑄1068年)である。

**大津市杉谷遺跡(143)** 55基の土坑墓が検出され、そのうちの15基から銭貨が出土している。寛永通寶が混じるものがあり、「江戸時代中期以降の庶民の共同墓地」と考えられる。中世の渡来銭貨は5基から16枚が出土しているほか、銭種不明なものがそのほかに28枚ある。

**【湖底・川底】** 彦根市多景島遺跡湖底遺跡(19)では、古代から近世・近代にいたるまでの銭貨が205枚出土していて、渡来銭貨はそのうち25枚を占める。唐橋遺跡(125)では、同様に766枚の銭貨が出土していて、渡来銭貨はそのうち615枚を占める。浮御堂遺跡(144)では、古代・中世の銭貨が177枚出土していて、渡来銭貨はそのうち166枚をしめる。

辻川氏は「多種類かつ多量の銭が出土する事例は、偶発的な出来事が特定の場所で長時間にわたって発生した結果とは想定し難く、銭を用いた祭祀が何度も継続して行われた痕跡とみるほうがよい。」(辻川2005)としていて、筆者も基本的にはその考えに同意する。ただし、「銭を用いた祭祀」とは具体的にどういったものであるのか、また長期間継続するにあたって、祭祀の方法や性格などは変化することが無かったのかなど、いくつかの検討課題は残されると考えている。

#### 4. おわりに

以上みてきたように、滋賀県域＝近江から出土した渡来銭貨の概要は、あくまで各遺跡の発掘調査報告書に掲載されている情報のみによるものである。したがって、実際にはあたっていないことから、不十分な点も多いものとなっている。しかし、これまで把握すらできていなかった近江における中世を中心とする渡来銭貨について、大まかな傾向を示すことはできた。したがって、全国的な出土傾向と比較するための基礎的なデータを構築できたという意味では、ある程度の成果を得られたと考えている。今後は、これらのデータが活用されるようにさらに充実させるとともに、より掘り下げた検討も各課題において行っていきたいと考えている。

また、拙稿を記したのには、ある1つの試みを示すという別の目的もあった。それは、「素人が見よう見まねでどこまでできるか」という試みである。筆者は、本紀要紙上においてもそうであったように、これまで縄文文化に関する検討を主として行ってきた。しかし、近江における中世の渡来銭貨に興味を持ったことから、従来あまり手がつけられていない分野であったこともあり、一から集成を始め、基本となる文献を読み込んで、検討を進めていくこととした。これらの作業は、大変さもありながら、新たな事実が判明していくという楽しさを味わうこともできた。

本稿の基礎部分となる文献検索は、就業前の30分と休憩時間の30分、1日合計1時間程度を費やして行った。期間的には約3カ月を要し、延べにしておおそ50日間50時間がかかったことになる。自宅では、週数時間程度を費やして、各文献の銭種と拓本の確認を行い、データを打ち込んで地名表を作成する作業を行ったうえで、本稿執筆や付随する表・図版の作成を行った。

埋蔵文化財行政に従事して給料をもらっている以上、多くの素人でもないが、基礎知識をあまり持たない私のような者でも、時間をかけさえすればこの程度のことは可能であった。ただし、一方で、それゆえの誤認や内容の不備も、専門的に研究している方達からみれば存在するのでは、という不安もある。ご指摘いただければ幸いである。

**文献**(著者名・刊行機関名50音順、刊行年順)

勝見孝彦(1994)「近江の銭貨出土中世墓の一事例」『出土銭貨』第2号、出土銭貨研究会  
 兵庫埋蔵銭調査会(1996)『日本出土銭総覧(1996年版)』  
 鈴木公雄(1999)『出土銭貨の研究』東京大学出版会  
 坂詰秀一編(2002)「出土銭貨研究の最前線」『季刊考古学』第78号、雄山閣  
 鈴木公雄(2002)『銭の考古学』吉川弘文館  
 永井久美男(2002)『中世出土銭の分類図版』高志書院  
 嶋谷和彦(2003)「模鑄銭の生産と普及」『戦国時代の考古学』高志書院  
 辻川哲朗(2005)「近江地域出土の古代銭貨」『紀要』第18号、財団法人滋賀県文化財保護協会  
 国立歴史民俗博物館(2007)『東アジア中世海道』  
 鈴木公雄編(2007)『貨幣の地域史—中世から近世へ』岩波書店  
 小原紗貴(2009)「滋賀県」『中世の墓と銭』出土銭貨研究会 編  
 櫻木晋一(2009)『貨幣考古学序説』慶應義塾大学出版会  
 松村恵志編(2009)「出土銭貨」『日本の美術』No.512、至文堂  
 三宅俊彦編(2012)「出土銭貨を巡る最前線」『考古学ジャーナル』No.626、ニューサイエンス社

**遺跡典拠文献**

数字は表1に対応、発行主体は以下のように省略した。

滋賀県⇒県、財団法人(公益財団法人)滋賀県文化財保護協会⇒(財)協会((公財)協会)、教育委員会⇒教委

1 愛東町教委(1998)『愛東町文化財調査報告書第8集 百済寺生活環境保全林事業調査報告書』  
 2 愛東町教委(2003)『愛東町文化財調査報告書第10集 百済寺遺跡分布調査報告書Ⅱ』  
 3 愛東町教委(2005)『愛東町文化財調査報告書第11集 鯉江城遺跡・百済寺遺跡』  
 4 安土町教委(1986)『安土町埋蔵文化財報告書第5集 十七遺跡(VI)発掘調査報告書—安土郵便局新築移転に伴う—』  
 5 安土町教委(1988)『安土町埋蔵文化財報告書第8集 安土城下町遺跡ほか町内遺跡群 緊急発掘調査概要報告書(1～6)』  
 6 愛知川町教委(2001)『愛知川町埋蔵文化財調査報告書第8集 畑田城遺跡・市村城遺跡・杵掛遺跡』  
 7 近江八幡市教委(1985)『近江八幡市埋蔵文化財調査報告書(VI) 森ノ前遺跡発掘調査報告書』  
 8 近江八幡市教委(2006)『近江八幡市埋蔵文化財調査報告書39 八幡山城遺跡18次調査概要報告書』

9 近江八幡市教委(2007a)『近江八幡市埋蔵文化財調査報告書40 八幡山城遺跡19次調査概要報告書』  
 10 近江八幡市教委(2007b)『近江八幡市埋蔵文化財調査報告書43 八幡山城遺跡14次・15次・16次・17次発掘調査報告書』  
 11 近江八幡市教委(2012a)『近江八幡市埋蔵文化財発掘調査報告書45』  
 12 近江八幡市教委(2012b)『近江八幡市埋蔵文化財発掘調査報告書46 安土城下町遺跡十七地区21次調査概要報告書』  
 13 大津市教委(1980)『大津市埋蔵文化財調査報告書(11) 日本住宅公団仰木地区土地区画整備事業対象地内 埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書』  
 14 大津市教委(1983)『大津市埋蔵文化財調査報告書(7) 錦織遺跡発掘調査報告書Ⅱ—大津市皇子が丘地区住宅改良事業に伴う—』  
 15 大津市教委(1985)『大津市埋蔵文化財調査報告書(10) 滋賀里・穴太地区遺跡群発掘調査報告書Ⅲ』  
 16 大津市教委(1989)『大津市埋蔵文化財調査報告書(14) 坂本遺跡発掘調査報告書—一般国道161号(西大津バイパス)建設に伴う—』  
 17 大津市教委(1992)『大津市埋蔵文化財調査報告書(20) 上高砂遺跡発掘調査報告書—一般国道161号(西大津バイパス)建設に伴う—』  
 18 大津市教委(1999)『大津市埋蔵文化財調査報告書(29) 大津城跡発掘調査報告書—浜大津公共駐車場・スカイプラザ浜大津建設に伴う—』  
 19 大津市教委(2003)『大津市埋蔵文化財調査報告書(34) 坂本遺跡群発掘調査報告書 坂本里坊遺跡・石占井遺跡』  
 20 大津市教委(2006)『大津市埋蔵文化財調査報告書(39) 石山寺境内遺跡発掘調査報告書』  
 21 大津市教委(2011)『大津市埋蔵文化財調査報告書(55) 穴太遺跡(南川原地区)発掘調査報告書』  
 22 大津市教委(2013)『大津市埋蔵文化財調査報告書(70) 大津城跡発掘調査報告書』  
 23 蒲生町教委(1991)『蒲生町文化財資料集(12) ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書V』  
 24 勸元興寺文化財研究所(1997)『三堂遺跡発掘調査報告』  
 25 木之本町教委(1977)『木之本町埋蔵文化財調査報告書 己高山鶏足寺跡第1次発掘調査概要報告書』  
 26 草津市教委(1994)『草津市文化財調査報告書22 下ノ笠堂跡・馬場・上笠遺跡発掘調査報告書』  
 27 草津市教委(2006)『草津川放水路関連遺跡発掘調査報告書7 御倉遺跡発掘調査報告書』  
 28 草津市教委(2008a)『草津市文化財調査報告書68 野路岡田遺跡発掘調査報告書』  
 29 草津市教委(2008b)『草津市文化財調査報告書70 墓ノ町遺跡発掘調査報告書』  
 30 草津市教委(2010)『草津市文化財調査報告書83 草津宿場町遺跡(第7次)発掘調査報告書』  
 31 甲賀町教委(2003)『甲賀町内遺跡詳細分布調査報告書』  
 32 甲賀市教委・積水化学工業(株)(2006)『下川原遺跡発掘調査報告書』  
 33 甲西町教委・(財)協会(1985)『井戸遺跡(第2次)発掘調査報告書』  
 34 五個荘町教委(1987)『五個荘町文化財調査報告11 宮荘・清

- 水ヶ井遺跡]
- 35 県教委(1971)『観音寺城跡整備調査報告書』
- 36 県教委(1973)『国道8号線長浜バイパス関連遺跡調査報告書Ⅱ』
- 37 県教委(1975)『ほ場整備事業に伴う文化財調査報告Ⅱ ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書』
- 38 県教委(1979)『滋賀県文化財調査報告書』第7冊
- 39 県教委(1991)『特別史跡安土城跡発掘調査報告1』
- 40 県教委(1993)『特別史跡安土城跡発掘調査報告3』
- 41 県教委(1997)『特別史跡安土城跡環境整備事業概要報告書Ⅳ』
- 42 県教委(1997)『特別史跡安土城跡発掘調査報告7』
- 43 県教委(1998)『特別史跡安土城跡発掘調査報告8』
- 44 県教委(2009)『特別史跡安土城跡環境整備事業概要報告書XⅥ』
- 45 県教委(2012)『史跡観音寺城跡石垣基礎調査報告書』
- 46 県教委・野洲町教委・(財)協会(1977)『久野部遺跡発掘調査報告書－七ノ坪地区－』
- 47 県教委・(財)協会(1973)『湖西線関係遺跡調査報告書』
- 48 県教委・(財)協会(1974)『北陸自動車道関連遺跡発掘調査報告書Ⅰ』
- 49 県教委・(財)協会(1980)『ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書8-1』
- 50 県教委・(財)協会(1983)『多景島湖底遺跡Ⅰ』
- 51 県教委・(財)協会(1985)『ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書12-2』
- 52 県教委・(財)協会(1986)『宇曾川災害復旧助成事業に伴う 妙楽寺遺跡Ⅱ』
- 53 県教委・(財)協会(1987a)『ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書14-6』
- 54 県教委・(財)協会(1987b)『一般県道荒見上野近江八幡線特殊改良第1種工事に伴う 笠原南遺跡発掘調査報告書』
- 55 県教委・(財)協会(1987c)『滋賀県住宅供給公社による横江住宅団地建設に伴う発掘調査報告書 横江遺跡発掘調査報告書Ⅰ』
- 56 県教委・(財)協会(1989a)『長浜新川中小河川改修事業に伴う鴨田遺跡発掘調査報告書Ⅰ』
- 57 県教委・(財)協会(1989b)『宇曾川災害復旧助成事業に伴う 妙楽寺遺跡Ⅲ』
- 58 県教委・(財)協会(1990)『ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書17-7 大手前遺跡・上下遺跡』
- 59 県教委・(財)協会(1991a)『一般県道野洲中主線改良事業に伴う中北遺跡発掘調査報告書』
- 60 県教委・(財)協会(1991b)『県営ふるさと街道整備事業関連遺跡発掘調査報告1 梅ノ木遺跡発掘調査報告書』
- 61 県教委・(財)協会(1991c)『ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書18-2 大東遺跡(Ⅰ)』
- 62 県教委・(財)協会(1991d)『ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書18-8 五条・南山田遺跡』
- 63 県教委・(財)協会(1991e)『ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書18-9 箕浦城・浄蓮寺遺跡』
- 64 県教委・(財)協会(1991f)『一般国道161号(高島バイパス)建設に伴う新旭町内遺跡発掘調査報告書Ⅱ 新庄城遺跡』
- 65 県教委・(財)協会(1992a)『長浜新川中小河川改修事業に伴う鴨田遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
- 66 県教委・(財)協会(1992b)『県営かんがい排水事業関連遺跡発掘調査報告書8-2 慈恩寺・金剛寺遺跡、後川遺跡』
- 67 県教委・(財)協会(1992c)『瀬田川浚渫工事関連埋蔵文化財発掘調査報告書2 唐橋遺跡』
- 68 県教委・(財)協会(1993a)『ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書20-1a 大東遺跡Ⅱ・円明寺遺跡・室町城遺跡・大辰巳遺跡・大東北遺跡』
- 69 県教委・(財)協会(1993b)『ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書20-2 観音寺城下町遺跡』
- 70 県教委・(財)協会(1994a)『草津川改修工事に伴う発掘調査報告書 北萱遺跡発掘調査報告書』
- 71 県教委・(財)協会(1994b)『県営かんがい排水事業関連遺跡発掘調査報告書9-1 妙楽寺遺跡・尼子遺跡』
- 72 県教委・(財)協会(1994c)『主要地方道大津能登川長浜線改良工事に伴う 加茂遺跡・一ノ坪遺跡発掘調査報告書』
- 73 県教委・(財)協会(1995a)『一般国道161号(西大津バイパス)建設に伴う発掘調査報告書 大通寺古墳群』
- 74 県教委・(財)協会(1995b)『ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書23-2 木曾遺跡』
- 75 県教委・(財)協会(1996)『県道敏満寺野口線改良工事に伴う 法養寺遺跡・尼子南遺跡』
- 76 県教委・(財)協会(1997a)『長浜新川中小河川改修事業に伴う発掘調査報告書5 大戊亥遺跡2・鴨田遺跡4』
- 77 県教委・(財)協会(1997b)『ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書24-12 中兵庫遺跡』
- 78 県教委・(財)協会(1998)『ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書25-2 尼子西遺跡2』
- 79 県教委・(財)協会(1998)『ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書25-4 上田上牧遺跡2』
- 80 県教委・(財)協会(1999a)『県道西明寺水口線道路改良第一種工事に伴う 蓮台遺跡発掘調査報告書』
- 81 県教委・(財)協会(1999b)『立石川単独通常砂防工事に伴う発掘調査報告書 石馬寺遺跡』
- 82 県教委・(財)協会(1999c)『長浜新川中小河川改修事業に伴う発掘調査報告書7 宮司遺跡2・鴨田遺跡6』
- 83 県教委・(財)協会(2000a)『赤田川単独河川改良工事に伴う発掘調査報告書 木曾遺跡』
- 84 県教委・(財)協会(2000b)『葉山川河川改修工事に伴う発掘調査報告書 上鈎遺跡』
- 85 県教委・(財)協会(2000c)『ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書27-3 観音寺城下町遺跡・上出B遺跡・老蘇遺跡』
- 86 県教委・(財)協会(2000d)『自然環境保全治山事業に伴う発掘調査報告書1 観音寺城跡』
- 87 県教委・(財)協会(2001)『琵琶湖開発事業関連埋蔵文化財発掘調査報告書5 山賀遺跡』
- 88 県教委・(財)協会(2002a)『2-3.東光寺遺跡』『緊急地域雇用特別交付金事業に伴う 出土文化財管理業務報告書』
- 89 県教委・(財)協会(2002b)『琵琶湖開発事業関連埋蔵文化財発掘調査報告書6 小津浜遺跡』
- 90 県教委・(財)協会(2002c)『ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書29-2 敏満寺西遺跡』
- 91 県教委・(財)協会(2002d)『ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書29-5 弁天島遺跡』

- 92 県教委・(財)協会(2002e)『草津川改修事業ならびに草津川放水路建設事業に伴う発掘調査報告書Ⅴ 中畑遺跡Ⅰ』
- 93 県教委・(財)協会(2003)『中山間地域総合整備関係遺跡発掘調査報告書2 上平寺遺跡・寺林遺跡』
- 94 県教委・(財)協会(2004a)『名神高速道路(多賀サービスエリア)改良事業に伴う発掘調査報告書 敏満寺遺跡』
- 95 県教委・(財)協会(2004b)『草津川改修事業ならびに草津川放水路建設事業に伴う発掘調査報告書Ⅵ 御倉遺跡Ⅱ』
- 96 県教委・(財)協会(2005)『日野川広域河川改修工事に伴う発掘調査報告書 里井B遺跡』
- 97 県教委・(財)協会(2006a)『県道柑子塩野線道路改築工事に伴う発掘調査報告書 竜法師城遺跡・池之尻遺跡』
- 98 県教委・(財)協会(2006b)『県道新海上稲葉線道路改良工事に伴う発掘調査報告書 国領遺跡』
- 99 県教委・(財)協会(2006c)『滋賀県立大学人間看護学部整備事業に伴う発掘調査報告書 八坂東遺跡』
- 100 県教委・(財)協会(2006d)『琵琶湖流域下水道事業(東北部浄化センター増設工事)に伴う発掘調査報告書 松原内湖遺跡』
- 101 県教委・(財)協会(2006e)『ほ場整備関係(経営体育成基盤整備)遺跡発掘調査報告書33-1 竜ヶ崎A遺跡』
- 102 県教委・(財)協会(2006f)『ほ場整備関係(経営体育成基盤整備)遺跡発掘調査報告書33-2 植城遺跡』
- 103 県教委・(財)協会(2006g)『草津川改修事業ならびに草津川放水路建設事業に伴う発掘調査報告書Ⅹ 柳遺跡Ⅲ』
- 104 県教委・(財)協会(2007a)『県営農業農村整備関係(県営田園交流基盤・田園空間整備)遺跡発掘調査報告書 夕日ヶ丘北遺跡・大篠原西遺跡』
- 105 県教委・(財)協会(2007b)『ほ場整備関係(経営体育成基盤整備)遺跡発掘調査報告書34-2 関津遺跡Ⅰ』
- 106 県教委・(財)協会(2008a)『県営農業農村整備関係(県営田園交流基盤・田園空間整備)遺跡発掘調査報告書Ⅱ 安養寺遺跡・辻野遺跡』
- 107 県教委・(財)協会(2008b)『国道422号線改良事業に伴う発掘調査報告書 関津遺跡』
- 108 県教委・(財)協会(2008c)『琵琶湖開発事業関連埋蔵文化財発掘調査報告書8 琵琶湖西南部の湖底・湖岸遺跡』
- 109 県教委・(財)協会(2008d)『琵琶湖開発事業関連埋蔵文化財発掘調査報告書9 烏丸崎遺跡・津田江湖底遺跡』
- 110 県教委・(財)協会(2009a)『ほ場整備関係(経営体育成基盤整備)遺跡発掘調査報告書36-2 野村北遺跡・小山遺跡・陣屋遺跡』
- 111 県教委・(財)協会(2009b)『ほ場整備関係(経営体育成基盤整備)遺跡発掘調査報告書36-5 関津遺跡Ⅱ』
- 112 県教委・(財)協会(2010a)『ほ場整備関係(経営体育成基盤整備)遺跡発掘調査報告書37-1 肥田城遺跡・肥田西遺跡・鶴田遺跡』
- 113 県教委・(財)協会(2010b)『ほ場整備関係(経営体育成基盤整備)遺跡発掘調査報告書37-4 関津遺跡Ⅲ』
- 114 県教委・(財)協会(2010c)『伊香立浜大津線道路改築事業に伴う発掘調査報告書 上仰木遺跡』
- 115 県教委・(財)協会(2010d)『主要地方道草津守山線(十里)緊急地方道路整備事業に伴う発掘調査報告書2 十里遺跡』
- 116 県教委・(財)協会(2011a)『琵琶湖流域下水道事業(東北部浄化センター増設工事)に伴う発掘調査報告書 松原内湖遺跡Ⅱ』
- 117 県教委・(財)協会(2011b)『ほ場整備関係(経営体育成基盤整備)遺跡発掘調査報告書38-1 浄土屋敷遺跡Ⅰ』
- 118 県教委・(財)協会(2011c)『ほ場整備関係(経営体育成基盤整備)遺跡発掘調査報告書38-3 夏見城遺跡』
- 119 県教委・(財)協会(2011d)『大砂川補助通常砂防工事に伴う発掘調査報告書 岩瀬谷古墳群』
- 120 県教委・(財)協会(2011e)『八日市新川広域河川改修工事に伴う発掘調査報告書 金貝遺跡』
- 121 県教委・(財)協会(2011f)『琵琶湖開発事業関連埋蔵文化財発掘調査報告書10 志那湖底遺跡・七条浦遺跡』
- 122 県教委・(財)協会(2013a)『中山間地域総合整備関係遺跡発掘調査報告書3-3 佐和山城跡』
- 123 県教委・(財)協会(2013b)『琵琶湖開発事業関連埋蔵文化財発掘調査報告書12 湖東南部草津川地域の湖底・湖岸関連遺跡』
- 124 県教委・(公財)協会(2013c)『鴨川補助広域基幹河川改修事業(青井川)に伴う発掘調査報告書1 天神畑遺跡・上御殿遺跡』
- 125 県教委・(公財)協会(2013d)『近江大橋有料道路建設工事(西詰交差点改良)に伴う発掘調査報告書 膳所城遺跡』
- 126 県教委・(公財)協会(2014a)『ほ場整備関係(経営体育成基盤整備)遺跡発掘調査報告書41-2 下羽田遺跡』
- 127 県教委・(公財)協会(2014b)『蒲生スマートインターチェンジ(NEXCO事業区域)設置工事に伴う発掘調査報告書 蛭子田遺跡1』
- 128 信楽町教委(2004)『信楽町文化財報告書 北黄瀬遺跡発掘調査概要報告』
- 129 新旭町教委(2001)『新旭町文化財調査報告書第1集 清水山城遺跡発掘調査報告書』
- 130 高島市教委・(財)協会(2010)『高島市文化財調査報告書第12集 西万木遺跡』
- 131 高島町教委・県教委・(財)協会(1980)『高島町歴史民俗叢書第2輯 鴨遺跡』
- 132 多賀町教委(1992)『多賀町埋蔵文化財発掘調査報告書第6集 四手遺跡(第3次調査)』
- 133 多賀町教委(2003)『多賀町埋蔵文化財発掘調査報告書第12集 櫛崎古墳群』
- 134 中主町教委(1984)『中主町文化財調査報告書第2集』
- 135 中主町教委(1990a)『中主町土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』
- 136 中主町教委(1990b)『中主町文化財調査報告書第21-2集 西河原森ノ内遺跡第1・2時発掘調査報告書Ⅱ』
- 137 中主町教委(1990c)『中主町文化財調査報告書第22-1集 吉地薬師堂遺跡第2次発掘調査報告書Ⅰ』
- 138 中主町教委(1991)『中主町文化財調査報告書第34集 平成2年度中主町内埋蔵文化財調査集報Ⅰ』
- 139 中主町教委(1993)『中主町文化財調査報告書第38集 平成4年度中主町内埋蔵文化財調査集報Ⅰ』
- 140 中主町教委(1994)『中主町文化財調査報告書第42集 平成5年度中主町内埋蔵文化財調査集報Ⅰ』

近江出土の渡来銭貨（小島孝修）

- 141 中主町教委(1997)『中主町文化財調査報告書第50集 平成6・7年度中主町内埋蔵文化財調査年報』
- 142 中主町教委(2001)『中主町文化財調査報告書第60集 平成11年度中主町内埋蔵文化財調査年報』
- 143 中主町教委(2004)『中主町文化財調査報告書第68集 吉地薬師堂遺跡発掘調査報告書 第39次・第41次・第42次・第43次』
- 144 長浜市教委(1990)『長浜市埋蔵文化財調査資料第6集 越前塚遺跡Ⅲ 口分田遺跡Ⅰ・Ⅱ 宮司遺跡Ⅳ 新庄馬場遺跡Ⅰ 大辰巳遺跡Ⅲ』
- 145 長浜市教委(1997)『長浜市埋蔵文化財調査資料第18集 下坂氏館跡・大戊亥遺跡・下坂中世墓群』
- 146 長浜市教委(2002)『長浜市埋蔵文化財調査資料第41集 宮司遺跡・長浜城遺跡・神照寺坊遺跡』
- 147 長浜市教委(2007)『長浜市埋蔵文化財調査資料第85集 鴨田遺跡第23次調査報告書』
- 148 長浜市教委(2012a)『長浜市埋蔵文化財調査資料第137集 大通寺遺跡第19次調査報告書』
- 149 長浜市教委(2012b)『長浜市埋蔵文化財調査資料第138集 平成23年度小規模開発関連発掘調査報告書』
- 150 能登川町教委(1985)『能登川町埋蔵文化財調査報告書第2集 大徳寺北遺跡』
- 151 能登川町教委(1995)『能登川町埋蔵文化財調査報告書第37集 横受遺跡7・中村堂遺跡・法堂寺遺跡』
- 152 能登川町教委(2004)『能登川町埋蔵文化財調査報告書第57集 猪子山(山面)古墳群・小川遺跡・高木遺跡』
- 153 東近江市教委(2007)『東近江市文化財調査報告書第2集 百済寺遺跡発掘調査報告書』
- 154 東近江市教委(2010a)『東近江市文化財調査報告書第9集 高野遺跡・高野館遺跡』
- 155 東近江市教委(2010b)『東近江市文化財調査報告書第15集 地藏遺跡・五個荘堂田遺跡・猪子遺跡・斗西遺跡・千里遺跡』
- 156 彦根市教委(2010)『彦根市埋蔵文化財調査報告書第46集 竹ヶ鼻廃寺遺跡Ⅴ・Ⅵ』
- 157 彦根城博物館(1988)『特別史跡彦根城跡 表御殿発掘調査報告書』
- 158 日野町教委(1989)『日野町内遺跡詳細分布調査報告書 昭和63年度版』
- 159 日野町教委(1991)『日野町埋蔵文化財発掘調査報告書第8集 県営かんがい排水事業関連遺跡発掘調査報告』
- 160 米原町教委(2001)『米原町埋蔵文化財調査報告書ⅩⅩⅡ 鎌刃城跡発掘調査概要報告書』
- 161 水野正好ほか(1981)『野洲郡中主町虫生出土の銭壺について』『滋賀文化財だより』No.54 (財滋賀県文化財保護協会)
- 162 守山市教委(1980)『守山市文化財調査報告書第6冊 吉身南遺跡発掘調査報告書』
- 163 守山市教委(1988)『守山市文化財調査報告書第31冊 古高遺跡発掘調査報告書』
- 164 守山市教委(2011)『欲賀遺跡第3次発掘調査報告書』
- 165 守山市教委(2012)『欲賀南遺跡発掘調査報告書』
- 166 野洲町教委(1982)『野洲町文化財資料集1981-2 昭和56年度 三堂・野々宮遺跡他発掘調査概要報告書』
- 167 野洲町教委(1983)『野洲町文化財資料集1982-2 昭和57年度 三堂・野々宮遺跡他発掘調査概要報告書』
- 168 野洲町教委(1987)『野洲町文化財資料集1986-3 昭和61年度 野洲町内遺跡発掘調査概要』
- 169 野洲町教委(1989)『野洲町文化財資料集1989 昭和63年度 野洲町内遺跡発掘調査概要』
- 170 野洲市教委(2004)『1999年 埋蔵文化財調査年報』
- 171 野洲市教委(2005)『1988・1989年 埋蔵文化財調査年報』
- 172 野洲市教委(2008a)『平成18年度 野洲市埋蔵文化財調査概要報告書』
- 173 野洲市教委(2008b)『平成18年度 野洲市埋蔵文化財調査概要報告書2』
- 174 野洲市教委(2010)『平成21年度 野洲市埋蔵文化財調査概要報告書2』
- 175 八日市教委(1993)『八日市市文化財調査報告書(12) 川合寺遺跡発掘調査報告書』
- 176 栗東市教委・(財栗東市事業団(2009)『栗東市文化財調査報告書第18冊 多福寺遺跡』
- 177 栗東町教委・(財栗東町事業団(1996)『栗東町埋蔵文化財発掘調査 1995年度年報』
- 178 栗東町教委・(財栗東町事業団(2001)『1985年度栗東町埋蔵文化財 発掘調査資料集』
- 179 (財栗東町事業団(1993)『栗東町埋蔵文化財発掘調査 1992年度年報』
- 180 竜王町教委(2004)『竜王町埋蔵文化財調査報告書第4集 ブタイ遺跡発掘調査報告書Ⅰ』
- 181 竜王町教委(2009)『竜王町埋蔵文化財調査報告書第8集 竜王町内遺跡発掘調査概要報告書 平成18年度～平成19年度』
- 182 高島町教委(1993)『高島町文化財資料集-16 大溝郭内遺跡調査概要』
- 183 県教委(1977)『滋賀県文化財調査報告書第6冊』

**【編集後記】**

本号は、縄文時代から近代までの、埋蔵文化財やその資料管理、建造物など、文化財にかかわる日頃の研究成果の集成、論考の再評価、等となっており、幅広い時期と事物を対象とした豊富な内容となりました。

本書が、文化財の保護と調査・研究の進展のため、広く活用されることを願います。  
(編集担当)

平成26年（2014年）3月31日

**紀 要 第 27 号**

編集・発行：公益財団法人滋賀県文化財保護協会  
520-2122 滋賀県大津市瀬田南大萱町 1732-2  
(TEL) 077-548-9780 / (FAX)077-543-1525  
e-mail: mail@shiga-bunkazai.jp  
<http://www.shiga-bunkazai.jp/>

印刷・製本：マルキ印刷株式会社